



国際ロータリー  
会長 ジェニファー・ジョーンズ  
\*\*\*\*\*  
国際ロータリー第2670地区  
ガバナー 八田 光

### 2022-23年度

#### 【会長運営方針】

未来の善通寺ロータリー  
クラブをイメージしよう



### 2022-2023年度国際ロータリーのテーマ

- ◆例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
- ◆例会場 香川県善通寺市文京町 3-3-3  
(事務所) 善通寺商工会議所 2F  
TEL(0877)62-7627 FAX (0877)62-7656  
E-mail zen-rc@downtown21.gr.jp  
WEB <http://www.downtown21.gr.jp/zen-rc>

◆会長 葛石 智 ◆幹事 仙頭 志朗

55th



総本山善通寺五重塔

### 幹事報告

\* 例会後のおもてなし遍路道ウォークに参加の方は打ち合わせ会に参加できなかった方は、グループラインでお知らせします。

### 出席報告 正会員数35名 名誉会員1名

(2023/2/15 現在)

(出席免除会員(b)10名(a)0名)

2/22 (2642 例会) 会員数 35名 出席会員 17名(5名)  
欠席会員 9名

2/ 8 (2638)例会) 会員数 35名 出席会員 19名(5名)

<修正>

メイクアップ 1名

寺嶋謙次君

1/18 出席者 25名 出席率 80.65%

ビジター 0名

例会出席 名誉会員 樋笠幸三君

お客様(客話) 彫刻家 大西 康彦様

### お知らせ

\*\* 理事会報告 \*\* 2月22日発表

1. 高島弘武会員のお見舞いについて  
15日手術 頸動脈狭窄症 出席免除。お見舞い内規通り

### 2月創業祝

おめでとうございます



### 2月誕生祝

おめでとうございます



### 今月の例会プログラム 案

- 3月 1日(水) 客話 ZEN キューブ  
館長 井手 敏之 様
- 3月 8日(水) 客話  
ビラ奏者 真鍋 志保 様
- 3月15日(水) 卓話
- 3月22日(水) IM報告
- 3月29日(水) 客話 香川証券(株)

### ニコニコBOX

- 高畑光宏君: 本日は創業祝を頂き有難うございました。これからもご指導のほどよろしくお願い申し上げます
- 牧田嘉己君: ユネスコの寺子屋運動支援のご協力有難うございました。早退します。申し訳ありません
- 樋笠幸三君: 大西康彦様、本日は客話有難うございました。
- 葛石 智君: 当社が高松市より女性活躍企業として認定されました。評価を頂いたことを喜んでます
- 白井 聡、岡崎圭介君: 所用にて、早退します。

2023-24年度  
地区研修協議会のお知らせ  
4/16 (日) 全体会 10:30  
場所: アスティ徳島

### \* 今日の会長の言葉 \*

最近、リテンションリスクが注目されています。リテンションとは維持とか保持という意味ですが、具体的には介護離職のことを指しています。社員の雇用のことで、働き盛りの中堅社員が親の介護のために離職する事例が多くなっているようです。これを防止する対策が雇用問題化している現実があります。

## 客 話

美を手にするこの意味

彫刻家・新制作協会会員

大西 康彦



樋笠さんの誘いに乗せられて、文化や“美術・芸術”なぞという大それた話をするはめになりました。竜頭蛇尾に終わったおしゃべりをかいつまみ記します。

○私たちが現在何気なく使っている「芸術」「美術」、そして「彫刻」「絵画」などの用語は明治になって日本が西洋文化や思想を取り込み、その影響を受ける中で日本語化する必要上、表意翻訳した西洋由来の言語なのです。つまり、現在私たちが考え、受け入れている日本の文化や芸術論は西洋の思考方法の上に成り立っているとも言えるのです。

○「美術」という単語が初めて文献に見られるのは明治5年、ウィーン万博への出品目録の区分名称として美芸、美技、大工等の製品をまとめるための総称で、彫刻や絵画もまたこれと同称な新しい概念に沿って作られた造語なのです。ご紹介いただいた、彫刻家という私の肩書も以前は人形師か根付師、あるいは宮彫師や仏師のどれかだったのでしょ。

○明治になって「像ヲ造ル術」から新しく導入された概念の“彫刻”がどのように日本に定着していったのか、教育の面からたどります。明治9年イタリア人ラグーザを招いて工部美術学校を開設、デザイン、塑造、大理石等の授業で等身大の人体像を作る勉強を始めます。遅れて明治20年東京美術学校が設立され本格的な美術教育が始まり国策にもそった銅像、記念モニュメントを制作する人材が育って行くのです。先駆けとして「楠正成像」や「西郷隆盛像」が作られますが、まだ原型は木彫でした。歴史上の物語や偉人、軍人などをモデルとした『銅像』のイメージが定着してしまい、彫刻本来のアートとしての性格を歪ませることもありました。

○昭和18年敗戦が濃厚となり、“金属”としての銅像が供出させられ鋳つぶされていきます。ちなみに全国に944基あった中で残されたものは61基でした。モニュメントの運命は、時代の流行や政治・経済によって左右されます。1970年代から始まった彫刻のある街作りが全国的に拡がり彫刻公害などと揶揄されるほど玉石混交のモニュメントが設置され、今日に到っています。

そして半世紀、今度はこれらのモニュメントが廃棄されたり、設置の是非が論じられる事例が見られるようになりました。私の彫刻の場合も事状は少し異なるのですが市より知らない間に破棄されていたのです。

○その時どきの為政者の一存で処分される公的モニュメントや美術作品。ある者には万金の価値ある名作も別の人にとってはガラクタの無用物になる“美術作品”の値打を何に求めればいいのか？

私は、本阿弥光悦が名物の肩衝の茶入れを購入した時のエピソードを紹介して、“美”を愛する者の気持ちや所有する覚悟を学びたいと思うのです。

光悦はこの茶入れに出会い、その美しさに強く心を打たれました。何としても手に入れたいと思いましたが黄金30枚の大金があろうはずありません。身分不相応の無謀な申し入れに持主の小袖屋宗是はいくらかの値引きの好意を寄せましたが、光悦は金30枚の価は十分にする“名物”を、好意とは言え安く買うのは道にそむくと正金にて買ったのです。光悦は家屋敷を売り払い金10枚を工面し、残り20枚は他人から借りて金策をしたのでした。光悦を狂わせた。小さな茶入れが持つ品格や魔力こそが“美”そのものなのかも知れません。

公共の財産であるモニュメントの設置や撤去にも光悦の矜持のひとかけらでもあらまほしく思うのです。

蛇足・会議室の壁にかかっていたビュッフェとユトリロの複製画が私の話に首をかしげておりました。



大西氏の作品  
(客話資料より抜粋)



会長よりお礼の言葉

